

教科【国語】・種目【書写】

書名 項目	<h2 style="font-size: 2em;">新しい書写</h2>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> $\frac{2}{\text{東 書}}$ </div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元「書写のかぎ」で学習のポイントが簡潔にまとめられ、「書写テスト」のコーナーで知識の定着が確認できる工夫がされ、生徒の意欲が高められるようになっている。 ○筆の向きや筆の通り道が明確に分かるように穂先を朱墨で表したり、筆使いが分かるように擬音で表したりしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「見つけよう」では行書の特徴や仮名との調和のさせ方や、読みやすく早く書くための工夫点を考えさせるような項目が設定されている。 ○文字のいずみでは実際に文字を使って仕事をされている方のインタビュー記事が掲載され、手書きの文字の美しさ効果などが具体的に紹介されて、生徒が文字を身近に感じられるような工夫がされている。 ○各単元に設けられた「書写のかぎ」を手がかりにしなが、より適切な文字の書き方を考え、理解する活動を通して、思考力、判断力、表現力を養えるよう配慮されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○導入「書写で学ぶこと」では書写を学ぶ意義について将来に目を向けて、文字を書く力を高めることの重要性が意識でき、さらには意欲が高まるようになっている。 ○「書写のかぎ」を核とした課題解決型の学習展開になっている。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きのページ左側に毛筆、右側に硬筆の練習課題が用意されている。行書の点画など硬筆で練習をしたのち毛筆で活かせるよう段階を踏み、学習ができる。 ○「書写のかぎ」で学習が振り返られるよう、何を学んだか穴埋めの項目がある。 ○AB版で大きく見やすく机の上に置き手本としても取り組みやすいサイズである。 <p><各教材と社会生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生では「職場訪問」2年生では「防災訓練に参加しよう」3年生では「思いを文字で表そう」などといった学校生活や社会生活に密着した具体的な場面が設定されている。更にメモの取り方や手紙の書き方、レポートのまとめ方なども提示されていて、他教科との系統的な学習ができるよう工夫されている。 ○巻末に「書写活用ブック」があり、書写を生活の中で活かす際に、どのような手段・方法がよいか系統図が提示されている。例えばポスター、フリップ等の具体例では発表を聞く人に分かりやすくまとめる工夫が詳細に紹介され他教科の課題にも活用しやすくなっている。 ○見本だけではなく具体的なアドバイスが掲載されているので作品制作に役立つ。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○「生活に広げよう」では、本のポップ、ポスター、パンフレットなど、書写で学習したことを生活の中に活かす作品を作るための手立てを示している。 ○「文字のいずみ」では、文字文化や伝統を継承する心を養うための資料が写真やイラスト付きで紹介され、高等学校芸術科書道で学習する内容も取り上げられている。 	
表 記 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○AB版で、書き込み欄も大きく設定され、毛筆教材文字の周りには何も説明書きを書かないなど、教材文字に集中し取り組めるような紙面になっている。 ○全編を通してキャラクター、イラスト、写真が多用され、視覚的に生徒の興味を惹きやすく、親しみを持って取り組める。解説も丁寧なものになっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○書写の教科書として、半紙の大きさの見本になっているので生徒が取り組みやすい。 ○「書写のかぎ」を軸にして生徒が主体的に考え、文字を書き、言語活動を通して「書く力」を育めるような工夫が随所にされている。 ○「生活に広げよう」では伝統的な文字文化を継承し、社会生活の中で場面や相手を意識した書写の力が身につけられるような構成になっている。 	

教科【国語】・種目【書写】

書 名 項目	<h2>現代の書写</h2>	15 三省堂
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎編では、小学校で学習した内容を、再び確認することができる。 ○全ての教材に【学習目標】と【振り返り】が設定されており、【書き方を学ぼう】では、学習の要点を押さえることができる。また、いくつかある要点を1つに絞り、練習に取り組むことで、その日に学習する目標が達成しやすいような工夫がされている。 ○二次元コードで、参考資料を閲覧することができる。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○横書きで書かれた文章を、適切な文字の大きさや配列を考えながら、縦書きに書き直したり、実際に日常生活の場面を設定し、楷書と行書のどちらの書体が求められているかを考えながら書いたりするなど、実践的な力の定着が図られるようになっている。 ○手書き文字と活字が効果的に使い分けられているポスターなどを例示するとともに、手書き文字の魅力を伝え広めながら、社会で活躍する人物を取り上げることで、文字を手書きすることの意義を認識できるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生の文字と3年生の文字を見比べるページが設定されていて、3年間学習することによって、自分の文字がどのように変容していくか楽しみになる内容なので、生徒は主体的に学習に取り組めるようになっている。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○毛筆で習得したことを硬筆に生かすための、書き込みページが設けられている。これにより、繰り返し書いて習得することができるようになっている。また、要点ごとに幾つかの文字で練習できるため、より実践的に意識して書くことができるようになっている。 <p><各教科や社会生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本語だけではなく、県名や数字、アルファベットの練習もできるので、他教科の文字も、丁寧に書く指導ができるようになっている。 ○実際の手紙の書き方、新聞、情報誌、便箋と封筒、葉書、年賀状、送り状、のし袋、願書、原稿用紙の書き方見本があるので参考にできる。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻末資料【日常の書式】には、手紙やはがきの他に、送り状、のし袋、願書、原稿用紙の書き方が掲載されていて、【書写の広場】には、文房四宝、常用漢字表をもとにした、楷書と行書の一覧表が掲載され、主体的に学べるような毛筆補助教材が加えられている。 ○各学年で統一された淡い色合いで構成されていて、一目でわかりやすい資料構成となっている。 ○原寸大葉書の例があると同時に、原寸大葉書に練習ができるように工夫されている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○各教材が見開きで構成され、学習すべき内容が一目でわかるように工夫されている。 ○説明や指示が端的に表現されており、字間・行間も適切にとられ、読みやすく、学びやすいレイアウトになっている。 ○ユニバーサルデザインの視点から、識別しやすい配色や、重要な文字は大きさやフォントを変えて、わかりやすい工夫がされている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○数字、アルファベット、漢字や平仮名など、丁寧な書き方が示されているので、このような形で練習していくと、他教科の先生も、ノート指導等で読みやすい字が書けるような工夫がされている。 ○持ち方等について、ICTを活用した形式になっている。 ○細かな点まで配慮した工夫がたくさん見られる教科書となっている。 	

教科【国語】・種目【書写】

書名 項目	<h2>中学書写</h2>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元は「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」の順で示され、学習の見通しが立てやすい構成になっている。また、書写テストのコーナーで知識理解の定着を測ることができる。 ○「始筆・送筆・終筆」や筆圧を視覚的に分かりやすくするために、数字や矢印を入れたり、穂先の置き方を図で示したりしている。「まなびリンク」では、毛筆の全ての教材の動画が収録されており、閲覧することができる。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○行書の特徴や仮名との調和のさせ方、読みやすく速く書くための工夫点などを考えさせたり、学習活動や日常生活の中で場面に応じた書き方をするための注意点を話し合わせたりするなどの工夫がなされている。 ○「情報を整理して、活動につなげよう」では「解決方法を計画する」「情報を比較する」「事柄を推論する」と分類して、それぞれが図を使って分かりやすく提示されているので、話し合い活動や他教科の言語活動等で活用することができる。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習してきた書写の力が社会の中でどのように活用されているかを知ることにより、社会の形成に参画する意欲を促すように配慮している。 ○古典教材や文字文化の歴史を取り扱うことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛することに配慮している。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きのページの右側に毛筆の手本、左側に硬筆での試し書きや手本と同じ部首を使った漢字の紹介がなされていて、応用的に学べるよう工夫がされている。また、「漢字一覧表」から自分で習った部首の漢字を探し、硬筆で書くスペースがあり、自ら学び、社会生活で生かせるようになっている。 <p><各教科や社会生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○書写の授業で学ぶ内容が示された一本の樹木はカラーで見やすく、学んで得た力が社会生活でどのように生かされるかが視覚的に分かるように提示されている。 ○書写で習得した能力を、他教科のノートの取り方や社会生活に生かすための教材（レポートのまとめ方、手紙、年賀状、案内状、封筒、原稿用紙、願書、学級目標、体育祭等、行事の制作物、本の帯、ポスター、色紙、新聞など）の書き方見本が掲載されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻末「書式の教室」には、手紙、はがき、一筆箋、のしの書き方の例が掲載されている。また、国語との関連で、原稿用紙の書き方、進路との関連で願書や面接シートの書き方の例も示されている。「学習を生かして書く」では、各学年に応じた生活に生かせる作品作りを紹介している。 ○コラムには文字文化の継承という視点で書写を学ぶ意義が示されている。 ○最終ページには、発展的な学習内容である高等学校芸術科書道で扱う資料が掲載されている。 	
表 記 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○文章表現が平易で簡潔であるとともに、具体的かつ要点を押さえた解説文になっている。 ○大きなA B判で、右側の紙面に文字、左側の紙面に解説という見開き構成になっており、文字をよく見てから学習ポイントを確かめられる工夫がなされている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「書き方」の基本を確実に習得し、定着が図れるよう配慮されている。例えば、「まなびリンク」では毛筆教材の運筆動画によりリズムや字形のとり方を確認することができる。 ○中学校段階で必要になる「正しく、速く」書く能力を高めるためのページがあり、他の教科のノートのとり方なども紹介されている。 	

教科【国語】・種目【書写】

<p>書名 項目</p>	<p>中学書写</p>	<p>38 光村</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○中学校で初めて学習する行書の主要教材は4ページ構成となっており、基礎・基本がしっかりと習得できるように工夫されている。また1教材1事項で構成され、学習のねらいを重点化することで効率的に力がつけられるように配慮されている。 ○全教材に、学習のポイントがひと目でわかる「学習の窓」を設け、どの文字を書くときにも活用できる基礎・基本、原理・原則を明確に示している。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○教材冒頭には、文字の原理・原則を考えたり話し合ったりする活動「考えよう」が設定され、観察や比較を通して主体的に考えることで文字の書き方への理解を深め、思考力・判断力・表現力を養えるよう配慮されている。 ○テレビ番組のタイトルデザインや新聞記事を例とし、手書き文字と活字、硬筆と毛筆、明朝体とゴシック体を比較することを通して、目的に応じて文字を使い分けることの必要性や日本の文字の豊かさを学ぶことができる。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○各教材は、①考えよう(原理・原則の発見)→②確かめよう(書いて原理・原則を確認)→③生かそう(日常の文字に生かす・振り返り)という展開になっており、生徒が見通しをもって主体的に学習できるように工夫されている。 ○全教材に「目標」及び「学習を振り返る」(自己評価の観点)を明示し、知識・技能の定着や自己の成長を確かめられるように構成されている。</p> <p><毛筆と硬筆との関連> ○綴じ込みの「書写ブック」(硬筆練習帳)には、毛筆の学習を生かして硬筆で書く活動を豊富に設定しており、毛筆での学習を硬筆へとスムーズに生かし、書写の学びを深める工夫がされている。</p> <p><各教科や社会生活との関わり> ○「目標を書こう」や「行書を活用しよう」ではクラスの掲示物やノートなどの豊富な作例を掲載し、「日常に役立つ書式」では手紙やはがき、原稿用紙、願書等の書式を示すなど、身につけた書写力を日常生活に生かす手がかりとなるよう工夫されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○教科書紙面に「二次元コード」がある教材では、用具の準備・片付け、正しい姿勢・筆記具の持ち方、運筆等の動画コンテンツを閲覧することができ、授業の様々な場面で活用することができる。 ○巻末にまとめられた「中学生のための漢字字典」には、楷書・行書それぞれで書かれた「常用漢字表」に加え、「人名用漢字表」「部首別一覧」も掲載され、幅広い知識や教養を身につけられるように工夫されている。</p>	
<p>表 記 ・ 表 現</p>	<p>○硬筆・毛筆ともに生徒の発達段階に即した字体の教材が用いられ、生徒の混乱を招かないよう、書きぶりや部分の形も統一されている。 ○毛筆教材では、朱墨や筆使いを示す写真が多用されており、筆脈や穂先の動きを目で見て把握できるように工夫されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○書写を学習する目的や学び方を明確に示し、大切なことがひと目でわかる、すっきりとしたレイアウトになっている。 ○充実した学習指導書、QRコンテンツ、半紙原寸大手本・書き初め手本の掲載、別冊の「書写ブック」など、授業づくりをサポートする配慮が多くなされている。</p>	